

第62回 富山県中学硬式野球選手権大会 大会要綱

- 1 主催 富山県中学硬式野球協会
- 2 共催 富山テレビ放送株式会社 北日本新聞社 富山エフエム放送株式会社
株式会社ケーブルテレビ富山
- 3 後援 富山県中学校体育連盟 富山県
朝日町 入善町 黒部市教育委員会 魚津市 滑川市 上市町 舟橋村 立山町
富山市 射水市 高岡市 氷見市 砺波市 南砺市 小矢部市
- 4 協賛 ミズノ株式会社 株式会社太陽スポーツ
- 5 開会式 令和8年8月30日（日）16時00分より
富山県総合運動公園屋内グラウンド

6 開催期間

(1) リーグ交流戦

令和8年9月12日（土）～ 令和8年11月15日（日）

試合開始予定時間 第1試合開始時間 9時00分～

（県内各高校Gにて）第2試合開始時間 11時30分～

第3試合開始時間 14時00分～

(2) 富山県選手権大会

令和8年10月17日（土）～ 令和8年11月8日（日）

試合開始予定時間 上記リーグ交流戦と同じ

（県内各球場にて）

7 競技規定

日本野球連盟発行「公認野球規則」及び「富山県中学硬式野球協会会則」並びに「第62回富山県中学硬式野球選手権大会要綱」による。

8 大会要領

(1) リーグ交流戦の開催

本大会は、当協会に加盟している各チームにてリーグ戦を実施する。

(2) 富山県選手権大会の開催

富山県選手権大会は、全チームによるトーナメント方式で行う。富山県選手権大会の戦績上位3チームに対し、これを賞揚する。

9 出場チームの編成

大会に出場するチーム編成はつぎのとおりとする。

- チーム代表者 1名
- 安全管理者 1名
- 監督 1名
- コーチ 5名以内
- スコアラー 2名以内
- 選手 9名以上
- 審判員 5名以上

（注1）選手が上記チーム編成に満たない場合は、他クラブから選手の応援を得て大会に参加することができる。この場合、応援選手は応援元のユニフォーム着用とする。試合中、同一チームでユニフォームが統一されないこととなるが、特例として認める。

なお応援選手の試合出場は、応援チームでのみ出場ができ、応援元チームでの出場はできない。但し、応援チームが大会途中で以後の試合を辞退した場合、その後の試合には、元のチームに戻り出場することができるものとする。)

(注2 監督の重複登録は認めない。但し、試合当日において当該チームの監督が指揮を取れない場合は、当該試合の前日までに「監督代行申請書」を協会へ提出することとし、当協会において真にやむを得ないと認められる場合に限り、同一クラブ内で登録されている他の指導者を監督代行と認めることとする。)

(注3 登録コーチの内、ベンチに入れるのは、3名までとする。)

(注4 登録スコアラーの内、ベンチに入れるのは、1名のみとする。)

(注5 チーム代表者、及び安全管理者並びにスコアラーの各登録者がベンチに入るときはユニフォームを着用せず、協会徽章プレートを付けること。)

(注6 各チームは、地区大会にあたり、5名以上の審判員を当協会に登録すること。)

(注7 指導者不足のチームに関して、チーム代表者、及び安全管理者がコーチとして登録することを認める。)

(注8 監督は、試合開始予定時刻の60分前までに会場に到着し、その旨を球場責任者に申し出る。なお、当日交通事情等での遅れる場合は、事務局長に連絡すること。

10 出場資格

(1) クラブ資格について

令和8年度において、富山県中学硬式野球協会に加盟し、当協会の理念に沿いその目的を達成できると認められるクラブとする。

(2) 選手資格について

公立又は私立の各中学校に在籍し、協会加盟の各チームから出場選手として登録のある中学3年生とする。

(3) 選手の追加登録

本大会に出場させる選手の登録は、大会期間中随時これを認める。

但し、硬式クラブに所属している選手について、8月末時点で硬式クラブを退部している者を前提とし、硬式クラブとの二重登録を認めない。

※大会期間中の追加選手は、別に定める「出場選手追加登録申請書」を協会へ提出すること。

11 試合方法

(1) 各大会とも、試合時間は2時間以内とし、7回戦とする。

なお、7回を待たず終了回(裏)にて、1時間40分を超えている場合、次の回を最終回として、球場責任者が宣告する。

(2) 悪天候又は日没等により、試合の続行が困難と球場責任者が判断した場合には、4回を終了していれば試合成立とみなす。但し、不成立の場合は後日再試合とし、その日程は協会が調整とする。

(3) 同点の場合の措置

【リーグ交流戦】

7回終了時点で勝敗が決していない試合は、延長戦は行わず引き分け試合とする。

【リーグ交流戦】、並びに【富山県選手権大会】

指名打者制を採用します。指名打者の利用要件について、高校野球のルールに準拠します。

(1) 試合開始前の申告が必須 【5.11(a)(1)】

指名打者制度を使用する場合、試合開始前にオーダー表に指名打者の指名と打順を明記し、本部、相手チームおよび審判委員に正確に申告する必要があります。申告を怠ると、その試合ではDHを使用できません。

(2) 打順表に記載された指名打者の義務 【5.11(a)(2)】

試合開始前に交換された打順表に記載された指名打者は、相手チームの先発投手に対して、少なくとも1度は、打撃を完了しなければ交代はできません。(俗にいう「当て馬」はできない)ただし、その先発投手が交代したときは、その必要はありません。

(3) チームが指名打者を使用するか選択できる 【5.11(a)(3)】

チームは必ずしも投手に代わる指名打者を指名しなくても構いませんが、試合途中から指名打者を使うことはできません。

【富山県選手権大会】

7回終了時点で勝敗が決していない場合は、タイブレーク方式により勝敗を決することとしその方法は下記のとおりとする。※時間制限により6回同点の場合もタイブレークを行う

※ 延長に関わる特別規則（タイブレーク）

- ① 表裏ともに無死、一・二塁の状態から行うこととする。
- ② 打順は前イニングの続きから始めることとする。
- ③ 一塁ランナーは、イニングの先頭バッターの直前に名を連ねる選手とし、二塁ランナーは、一塁ランナーの直前に名を連ねる選手とする。
- ④ 以後延長回が続く場合は、継続打順とする。

- (4) 富山県選手権大会について、天候等の影響により予備日をもって開催できなかった場合について、以降の試合日程等は大会の打ち切りも含めて、協会長が裁定する。
- (5) 試合に使用する硬式球は、富山県中学硬式野球協会公認の「富山県中学硬式野球協会」と記名のある硬式球のみとする。

12 審判

- (1) 球審を県内各野球協会等に所属する審判員。塁審を、各チーム登録審判員による4審制で試合を開催すること。但し、県内各野球協会等に所属する審判員の派遣が得られなかった場合、対戦チームと協議し、各チーム指導者において球審を行うなど、試合運営に支障がないよう調整を図ること。
- (2) 審判員は、
 - 当該試合の1塁ベンチチームが2塁塁審
 - 3塁ベンチチームが1塁塁審・3塁塁審を務めることを原則とする。
- (3) 各チーム登録審判員は、打球や選手の動きにより俊敏な対応がとれるよう、動きやすい服装、履物で審判を行うこと。また、選手と区別がつくよう、審判員と判断できる服装とすること。

13 試合上の遵守事項

- (1) 試合会場となる球場には、国旗及び協会旗を確実に掲揚すること。
- (2) 試合中、打者、及び守備に就く選手をアナウンスする際は、任意で当該選手の所属中学名を合わせてアナウンスすること。
- (3) 審判への抗議は、主将のみとする。
- (4) 試合中に起きた不慮の事故や傷病等については、主催者において責任を負わないので、双方チームにて応急救護を施し、速やかに救急搬送等の措置を構ずること。
- (5) 各チームにおける学校行事や諸情による試合日程の調整は行わないので、予め日程調整会議を開催するなどし、円滑な試合運営に努めること。なお、諸情により試合ができなかったチームについては、当該チームを不戦敗とし、そのスコアを0対7とする。
- (6) 降雨などの影響による試合中止の判断は、当日の会場責任チームにおいて、午前8時をもって決定とする。
- (7) 前試合が予定時間より早く終了した場合において、以降の試合時間は繰上げない。
- (8) 試合会場のベンチは、試合日程表記載の左側チームを一塁、右側記載チームを三塁とする。
- (9) 試合に出場する選手及び監督・コーチは、ユニフォーム上着左袖に「富山県中学硬式野球協会・徽章」を備えること。(協会名変更に伴う徽章の更新は行わない。旧協会名のものをそのまま使用する。ユニホームの更新等があった場合、徽章の貼付け・着用は任意とする。但し、左袖に備えることができない場合は、右袖など適宜その位置を変更してもよい。
- (10) ベンチに入る選手・監督・コーチの背番号については、選手は1から始まる番号とし、主将は主将マークを備えること。また、監督は30、コーチは、40 50 60 70 80 とすること。
- (11) 試合の先攻・後攻は両チームの主将によるじゃんけんとし、メンバー交換とともに、第1試合の場合は試合時間の40分前、以降の試合については、前試合の4回終了時において、会場責任者立会いの下、実施すること。その際に提出するメンバー表の記載要領については、協会指定のメンバー表に先発選手のみを記載し、全選手が記載された本大会登録表を添付したものを3部提出すれば足りることとするが、審判の求めがあれば柔軟に対応すること。なお、メンバー表に添付する大会登録表については、審判に配意し、協会指定のメンバー表のサイズに縮小するなど、適宜配意を図ること。
また、各会場の責任チームは、当該試合の審判にあたる各審判員に対し、上記メンバー表の提出方法はもとより、当協会の定める試合上の取り決め事項などを十分に説明し理解を求めるなど、試合運営が円滑に進行するよう配意すること。
- (12) シートノックは、後攻より7分間において実施する。第2試合以降のチームについては、前試合終了後、グラウンド整備を待たず、シートノックを実施し、そのシートノック終了後に、前試合チーム（第一試合を除く）がグラウンド整備をすることとする。
- (13) 次試合のバッテリーの内、1組は前試合の4回終了時をもって、ブルペンで投球練習をすることができる。
- (14) 試合中、打者走者、及びランナーコーチ並びにボールボーイは、確実に両耳のあるヘルメットを装着すること。合わせて捕手は、セーフティカードを装着すること。
- (15) 試合中のタイム数は、以下の通りとする。

【守備時】 3回・・・(タイムを取って、伝令又は内野手(捕手を含む)が2人以上マウンドに集まる)

【攻撃時】 3回・・・(タイムを取って、打者及び走者に指示をする)

【延長時】 各1回

- (16) 監督は、試合中において緊急の場合や審判の求めがある場合を除き、フェアグラウンドには入れない。
- (17) リーグ戦において、怪我等特段の事由を除き、登録されている全ての選手について、攻守を含め(全試合の内) 1 イニング以上出場させ、硬式野球の試合経験を積ませること。
- (18) 投手の一日における投球回数は、4 回までとする。なお、端数回数(0/3、1/3、2/3) は、1 回とみなす。
- (19) 「申告故意四球」。守備側のチームの監督が、球審に打者を故意四球する意思を伝えた時点で、投手が投球することなく当該打者に四球を与えることができる。この「申告故意四球」には、回数の制限は設けない。

14 大会運営上の注意事項

- (1) 試合球については、協会より全球を提供するが、球場責任者は試合に使用した試合球、及び余剰球について、確実に回収の上、地区大会終了後に協会へ返球すること。
- (2) 試合会場駐車場内やその周辺における交通事故や盗難、その他ファールボールによる車両の損壊等の各種事故については、当協会として一切責任を負わないので、各試合会場の責任チームにおいて、マイク広報や広報文を掲示するなど注意喚起を徹底すること。
- (3) 参加クラブは、出場する選手、及び各指導者並びに審判員として登録のある保護者に対し、スポーツ保険等の賠償保険に加入し、協会から求めがあれば、その保険証書等の写しを協会に提出すること。
- (4) 練習会場や試合会場等への移動は、原則として保護者の責任による送迎等とすること。但し、やむを得ない事情により、自転車又は徒歩で移動させる場合には、移動中における交通事故を含めた不慮の事故等に対応する保険に加入すること。
- (5) 選手登録、及びチーム構成等に不正があった(試合)又は嫌疑が生じた場合は、当該試合終了当日において、申し立てるチームの監督をもって、当協会へ申告すること。
その申告により理事長は、関係者を招致し事実確認を行い、不正が認められた試合については、大会長裁定により没収試合とし、その対象チームについては 0 対 7 にて負けとするほか、以降の試合出場について会則第 11 条(3)で定める会議を開催し検討する。
- (6) 本大会は、富山県中学校体育連盟はもとより、富山県や県内各市町村の後援により開催されていることに鑑み、各指導者はもとより所属選手に対しても、公私を問わず、自らを律するよう、指導を徹底するとともに、各クラブの代表・監督・コーチ等、選手指導に携わるあらゆる関係者は、当協会の理念に則り、選手の健全育成及び健全指導を徹底すること。
- (7) 万が一大会開催中において、所属クラブ関係者、及び所属選手において、事故や非行等が発生した場合は、速やかに協会に報告をすること。なお、所定の報告がなく事後に当該事案が発覚した場合には、会則第 11 条(3)で定める会議を開催し対応を検討する。
- (8) 各クラブは、相互の融和と協調の精神の下、当協会及び大会運営に関し、誹謗中傷や無用な紛議又は大会運営に支障を及ぼす行為等を生じさせぬよう、協会員としての自覚を持ち、協会運営及び大会運営及び選手指導にあたること。
- (9) 用具装具の点検を試合前に球場責任者、及び各チームの安全管理者(指導者)にて実施すること。
- (10) テーピング等の着用の場合、事前(メンバー交換時)に申告すること。
- (11) 周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイト等で常時天候情報を確認すること。なお、危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。